

## 倒産集計

## 信用交換所京都本社

## 11年7月繊維倒産

## 件数は減少するも、負債額は膨らむ

▼全国▲ 発生件数=35件 負債額=132億9000万円

2011年(平成23年)7月の全国繊維業者の倒産(負債額1000万円以上=整理・内整理含む)は35件。前月比で3件(7.9%)、前年同月比で12件(25.5%)減少した。

負債額は132億9000万円で、前月比26億8400万円(25.3%)、前年同月比16億9700万円(14.6%)の増加となった。これは(株)アイ・ピー・ジー・アイ(東京都渋谷区、婦人カジュアルウェア製造・小売)が負債額75億9700万円を抱え破たんしたため。それ以外で目立った大型倒産は篠田繊維(長野県松本市、靴下製造ほか、負債額10億5800万円)の1社のみであり、上記2社を除き負債額3億円以上の倒産は5社にとどまり、引き続き業績ジリ貧による小規模倒産が大勢を占める結果となった。

電力不足に伴う「スーパークールビズ」効果でシャツなど一部の繊維製品に対する需要が増加し、6月度の百貨店・スーパーの売上高もプラスに転じており、震災後ようやく消費者心理も上向きつつあることを示している。また、繊維業界は決済の端境期にあたり、セーフティネットなどを含めた各種金融政策も効力を発揮していることから引き続き落ち着いた状況となった。

しかし、大手企業が想定しているレート80円を切るような急激な円高が進んでおり、輸出関連などを中心に今後業績悪化が懸念されるほか、株式市場への悪影響も予想される。また、近時の収益・資金繰り悪化の一因ともなっているデリバティブに係る損失がさらに膨らみ、すでに金融機関にリスケなど要請し経営再建中の企業にとっては厳しい経営を余儀なくされることから、今後倒産が増加に転じる可能性は否定できない。

業種別では「小売商」10件、「紳士・婦人・子供服・被服製造卸」9件、「ニット製品・洋品雑貨製造卸」「その他」各5件、「織物製造」2件、「紡績・撚糸」「染色整理・特殊加工」「織物卸」「寝具・インテリア製品製造卸」各1件。

原因別では「業績ジリ貧」が30件で全体の85.7%を占め、次いで「業況急変」3件、「放漫経営」「融手連鎖」各1件となった。

▼京都▲ 発生件数=0件(前年同月2件) 負債額=0円(前年同月2億2200万円)

▼滋賀▲ 発生件数=0件(前年同月0件) 負債額=0円(前年同月0円)